

# 学 修 簿

2024年度（令和6年度）

薬 学 部

薬 学 科



公立大学法人 山陽小野田市立  
**山口東京理科大学**  
Sanyo-Onoda City University



## 学修簿について

薬学部長

学修簿は、山陽小野田市立山口東京理科大学薬学部で学修するための重要な手引書である。

学修簿には、授業科目の履修の仕方や単位の修得について書かれている。卒業するまで常に手元に置いて、シラバスや時間割表の情報と併せて活用し、自分自身の学修計画を立てるためのガイドブックである。各自の学修計画に従って、授業に出席し、そして十分な自習時間を確保して学修を進めなければならない。なお、授業内容の理解を深め学修するためにも、「考える」時間と「考える」習慣を身につけることが大切である。



## 目次

### 学修簿について

第1	建学の精神・大学の目的	1
第2	人材育成の目的	1
第3	卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）	2
第4	教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）	4
第5	単位制と単位の計算基準	7
	1. 単位制	
	2. 単位の計算基準	
第6	教育課程と授業科目の区分	8
	1. 教育課程の適用	
	2. 教育課程	
	3. 授業科目の区分	
	4. 授業科目表	
	5. カリキュラムマップ	
	6. カリキュラムツリー	
	7. 薬学教育モデル・コアカリキュラムと授業科目の対比表	
第7	学位授与の方針と卒業の要件	9
	1. 学位授与の方針	
	2. 卒業の要件	
	3. 在学年限	
第8	進級の要件	11
	1. 2年進級条件	
	2. 3年進級条件	
	3. 4年進級条件	
	4. 5年進級条件	
	5. 6年進級条件	
	6. 薬学共用試験受験資格	
第9	授業・履修	14
	1. 学期	
	2. 授業時間	
	3. クラス分け授業	
	4. 実験実習の授業	
	5. シラバス（授業計画）	
	6. 履修登録	
	7. 再履修	
	8. 授業アンケート	
	9. 履修上の一般的注意事項	

10.	クォーター制科目	
11.	休講・補講	
12.	勉学勧告・進路変更勧告の基準	
第10	授業科目表	18
第11	試験	20
	1. 試験の種類	
	2. 受験において順守する事項	
第12	成績評価基準及び単位の認定	23
	1. 成績評価基準	
	2. GPA評価	
	3. 合格発表（単位認定）	
第13	数理・データサイエンス・AI教育プログラム	25
	1. 数理・データサイエンス・AI教育プログラム	
	2. 学習・教育目標	
	3. 履修方法	
	4. 教育プログラム修了要件	
	5. 教育プログラム科目	
第14	手続きが必要な事項	26
	1. 住所変更、本籍・保証人の変更、改姓・改名（学籍簿の変更）	
	2. 証明書の交付	
	3. 休学・長期欠席と復学、退学と再入学	
	4. 除籍	
	5. 公欠届	
	6. 欠席届	
第15	学内の相談窓口・連絡先	28
巻末資料①	カリキュラムマップ	
巻末資料②	カリキュラムツリー	
巻末資料③	薬学教育モデル・コアカリキュラムと授業科目の対比表	

## 第1 建学の精神・大学の目的

### 建学の精神

理学の普及を以て国運発展の基礎とする。

### 大学の目的

山陽小野田市立山口東京理科大学は、地方都市における落ち着いた教育環境のもと、薬工系の基礎的知識と専門的な学術を教育・研究するとともに、地域に根差し、地域社会の発展に寄与する「地域のキーパーソン」の育成に貢献することを目的とする。(学則第1条)

### 大学の基本理念

- ・世界的視野で物事を思考できる人間性豊かな人材の育成
- ・波及効果の期待できる独創的・先進的研究の推進
- ・教育・研究と地域貢献が一体化した生涯教育の充実

## 第2 人材育成の目的

大学の基本理念と教育方針の実現に向けて、学部学科が達成すべき使命・目的が定められている。学部学科は、この使命・目的を成し遂げるためにカリキュラムを編成し、考える礎となる基礎学力を備えた人間性豊かな人材の育成に努める。

### 薬学部の目的

薬学部は、「薬学をとおして人の健康を守る」という高い志と倫理観・研究心を持ち、薬剤師資格を得た優れた薬学人を養成し、もって山口県を中心とする地域に貢献することを目的とする。

### 薬学科の目的

薬学科は、薬学全般に亘る幅広い知識と技能を備え、病院や薬局などの医療現場等で活躍することのできる高度な問題解決能力とヒューマニティを併せもった薬剤師の養成と、創薬や健康な社会創りを目指した薬科学の発展を担う創薬研究者・技術者、健康社会を実現する薬学士を育成する。

山陽小野田市立山口東京理科大学薬学部は、1881年に創建された東京物理学講習所以来の建学の精神「理学の普及を以て国運発展の基礎とする」を深く理解し、薬学のスペシャリストたる本校卒業生の薬学人としての活躍により健康を通じて国運発展の基礎とする事を目標とする。

そのため、地方公立大学薬学部として、地域創生の観点から健康医療に関わる課題等に積極的に取り組み、教育・研究を通じて様々な地域社会や国際社会の発展に貢献しうる人材を輩出する。

以上の教育・研究上の使命に鑑み、本学の基本理念である「世界的視野で物事を思考できる人間性豊かな人材の育成」「波及効果の期待できる独創的・先進的研究の推進」「教育・研究と地域貢献が一体化した生涯教育の充実」の元、「薬学をとおして人々の健康を守る」という薬学部独自の志を掲げ、以下を修得した学生に対して学位を授与する。

1) 薬学人としての教養と倫理観、コミュニティー愛、キーパーソンとして活躍するためのリーダーシップ

- ・「薬学をとおして人々の健康を守る」という薬学人として活躍できる教養と人間性、倫理観を備えている。
- ・自らの関係する地域社会をはじめ様々なコミュニティー（職業、学問領域など）を愛する気持ちを有している。
- ・患者本位の視点で人の命と健康な生活を守るキーパーソンとして活躍するためのリーダーシップ（意欲、使命感と責任感）を備えている。

（薬学教育モデル・コア・カリキュラム10の資質の対応番号：1、2、3、4、9、10）

2) 薬学人としての基本的な知識・技能と、それらに裏付けられた応用力

- ・薬学人の知識の基盤となる基礎科目（物理・化学・生物）及び情報学、統計学の、基礎知識を有している。
- ・基礎科目等の学びで得た基礎知識を基盤として、健康・福祉・医療・創薬など様々な分野で、薬学人としてその知識・技能・応用力を発揮できる。
- ・患者や生活者の視点に立った薬物治療方針を立てることができる。

（薬学教育モデル・コア・カリキュラム10の資質の対応番号：4、5、6、7）

3) 薬学人としての問題発見・解決能力と研究遂行意欲

- ・薬学の領域をはじめ様々な自然科学的または社会的現象について、解決すべき問題を発見・認識できる。
- ・発見・認識した問題に対し、薬学的知識・技能を基盤に、その解決に向けた研究立案およびその遂行の意欲を有している。

（薬学教育モデル・コア・カリキュラム10の資質の対応番号：3、4、5、7）

#### 4) 薬学人としてのコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力

- ・患者や生活者、他医療職種はじめ他職種に対し、自らのみならず相手の立場を理解の上、対象者に関する有益な情報を収集・発信できる。
- ・薬学領域のみならず地域社会・国際社会で問題解決に向け、よりよい方法を探索し、その情報を発信できる。

(薬学教育モデル・コア・カリキュラム10の資質の対応番号：5、6、7、8、9)

### ※薬剤師として求められる基本的な資質・能力

薬剤師は、豊かな人間性と医療人としての高い倫理観を備え、薬の専門家として医療安全を認識し、責任をもって患者、生活者の命と健康な生活を守り、医療と薬学の発展に寄与して社会に貢献できるように、以下の資質・能力について、生涯にわたって研鑽していくことが求められる。

#### 1. プロフェッショナリズム

豊かな人間性と生命の尊厳に関する深い認識をもち、薬剤師としての人の健康の維持・増進に貢献する使命感と責任感、患者・生活者の権利を尊重して利益を守る倫理観を持ち、医薬品等による健康被害（薬害、医療事故、重篤な副作用等）を発生させることがないよう最善の努力を重ね、利他的な態度で生活と命を最優先する医療・福祉・公衆衛生を実現する。

#### 2. 総合的に患者・生活者を見る姿勢

患者・生活者の身体的、心理的、社会的背景などを把握し、全人的、総合的に捉えて、質の高い医療・福祉・公衆衛生を実現する。

#### 3. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療・福祉・公衆衛生を担う薬剤師として、自己及び他者と共に研鑽し教えあいながら、自ら到達すべき目標を定め、生涯にわたって学び続ける。

#### 4. 科学的探究

薬学的視点から、医療・福祉・公衆衛生における課題を的確に見出し、その解決に向けた科学的思考を身に付けながら、学術・研究活動を適切に計画・実践し薬学の発展に貢献する。

#### 5. 専門知識に基づいた問題解決能力

医薬品や他の化学物質の生命や環境への関わりを専門的な観点で把握し、適切な科学的判断ができるよう、薬学的知識と技能を修得し、これらを多様かつ高度な医療・福祉・公衆衛生に向けて活用する。

#### 6. 情報・科学技術を活かす能力

社会における高度先端技術に関心を持ち、薬剤師としての専門性を活かし、情報・科学技術に関する倫理・法律・制度・規範を遵守して疫学、人工知能やビッグデータ等に係る技術を積極的に利活用する。

#### 7. 薬物治療の実践的能力

薬物治療を主体的に計画・実施・評価し、的確な医薬品の供給、状況に応じた調剤、服薬指導、患者中心の処方提案等の薬学的管理を実践する。

#### 8. コミュニケーション能力

患者・生活者、医療者と共感的で良好なコミュニケーションをとり、的確で円滑な情報の共有、交換を通してその意思決定を支援する。

#### 9. 多職種連携能力

多職種連携を構成する全ての人々の役割を理解し、お互いに対等な関係性を築きながら、患者・生活者中心の質の高い医療・福祉・公衆衛生を実践する。

#### 10. 社会における医療の役割の理解

地域社会から国際社会にわたる広い視野に立ち、未病・予防、治療、予後管理・看取りまで質の高い医療・福祉・公衆衛生を担う。

山陽小野田市立山口東京理科大学薬学部は、地域創生の観点から健康医療に関わる課題等に積極的に取り組み、教育・研究を通じて様々な地域社会や国際社会の発展に貢献しうる人材を輩出するという、地方公立大学薬学部としての教育・研究上の使命に鑑み、本学部の「薬学をとおして人々の健康を守る」という志に基づいた学位授与方針に示す資質・能力を習得するため、以下の教育課程を編成する。

- 1) 「薬学人としての教養と倫理観、地域愛、リーダーシップ」を醸成するために、以下に示す総合教育科目群を受講する。
  - ・幅広い教養と人命を最大限に尊重することのできる人間性豊かな人材を育むことを目的として、「一般科目」で人文科学に関する様々な科目を受講する。
  - ・薬学人としての基本姿勢を学ぶため、医療倫理教育やヒューマンズ教育科目を履修する。
  - ・地方公立大学薬学部として地域愛を高めるため、山口県や山陽小野田市の学術文化に関する講義を受講する。
  - ・所属するコミュニティーにおいて、薬学・健康に関わるリーダーとして活躍するために求められる、薬学的素養（意欲、使命感と責任感、知識、技能、態度）を養うための科目を履修する。
  - ・地方公立大学薬学部として、地元をはじめ様々なコミュニティーにおけるキーパーソンとして貢献する意識を高めるために、山口県や山陽小野田市の学術文化に関する講義を提供するとともに、山口県内の病院や薬局、製薬関連企業等の見学の機会やその第一線で活躍する県内薬剤師等との意見交換の場を提供する。
- 2) 「薬学人としての基本的な知識・技能と、それらに裏付けられた応用力」を習得するために、以下に示す教育課程を年次進行で受講する。
  - ・1年次では、薬学教育の基本的事項を習得するため、薬学の概略や物理・化学・生物の基礎を身につけるための科目を受講する。また、近年の薬学分野で必須の情報リテラシーや統計学の基礎科目も受講する。
  - ・2年次では、1年次基礎教育を基に、薬学教育の土台となる有機化学・物理化学・生化学を中心に、講義・演習・実習を組み合わせる体系的に学ぶことができる科目を受講する。また、医療・社会健康薬学に関する基礎科目も受講する。
  - ・3年次では、学修者自身が多様性をもって志望するキャリアに沿った薬学教育の中でもより専門性の高い科目を受講する。すなわち、患者情報に応じた最適な薬物治療を実施する総合医療薬学を実習と併せて集中的に学習する。また、創薬で欠かせない最新の専門知識を習得する科目を受講する。

- ・ 4年次では、調剤、服薬指導、チーム医療など、薬剤師としての職務に必要な知識・技能・態度を身に付けるための科目を履修する。また、5年次の実務実習に向けた薬剤師実務の能力を習得するための科目を受講するとともに、その知識と技能を確認する共用試験（CBT、OSCE）を実施する。なお、合格者のみが5年次の実務実習に参加可能である。
  - ・ 4年次～6年次の期間、それまでに習得した基本的な知識・技能を活かして、課題発見・問題解決能力などを含む総合的薬学研究遂行能力を修得するため、卒業研究を受講する。すなわち、薬学部の各研究室に配属され、担当教員から教育指導を受けながら各自に与えられたテーマについて研究活動を継続的に行う。また、研究室内外で実施される各種セミナーや学会等に参加し学術発表を行い、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力等も修得する。
  - ・ 5年次では、病院と薬局双方の現場での薬剤師業務を通じて実践的かつ総合的な臨床薬学能力を習得すべく、病院薬局実務実習を受講する。
  - ・ 6年次では、薬学人としての知識の総合力を高めるため、薬学教育を総括する科目を受講する。また、4年次から取り組んできた卒業研究の内容を卒業研究論文として取り纏めると共に、その成果を発表する。
- 3) 「薬学人としての問題発見・解決能力と研究遂行意欲」を育成するために、
- ・ 1・3・4年次の開講科目で実施されるPBL（Problem-Based Learning）やSGD（Small Group Discussion）を含むアクティブラーニングを通じて、問題点の洗い出しや論点の整理、問題解決のためのプランニングなど、問題発見・解決能力の醸成と基本的な技能を習得する。
  - ・ 学生実習や実務実習、卒業研究において、自身が得た経験と観察、実験・研究データから様々な原因・理由を考察し、他のメンバーやグループなどとの様々な議論や意見交換を経ながら問題解決の糸口を見出すための実践的な技能を取得する。更に卒業研究では、問題解決手法を自ら実践し、その結果をもとに更なる改良・改善を目指すことで、高い研究遂行意欲の醸成を図る。
  - ・ 収集情報の的確な整理・分析に極めて重要な統計学関連の講義を受講する。
- 4) 「薬学人としてのコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力」を習得するために、
- ・ 医療機関の他職種連携・協力（チーム医療）においてそれぞれの立場を理解し、薬剤師として積極的に参画することで地域医療に大きく貢献する意識を醸成する科目を受講する。
  - ・ 幅広い教養と薬学人としての基本姿勢を学ぶために、1年次開講科目でスモールグループディスカッションを積極的に実施し、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の意識づけと基本的な技能を習得する。

- ・ 学生実習や実務実習、卒業研究において、各実習グループ・研究グループ内でのデータ共有や考察を実施し、他のメンバーやグループなどとの様々な議論や意見交換、更には学術発表をはじめ様々な発表を経験することで、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の一層の向上を図る。
- ・ 国際社会で必要不可欠な言語として、英語科目を提供する。また、本科目では、理解度・習熟度に応じたグループ別指導を実施するなど、第二言語である英語のきめ細かい指導により能力育成を行う。
- ・ 薬学分野の専門英語の基礎力習得のために、科学英語を提供する。
- ・ 卒業研究では、与えられた研究テーマや配属された研究室の研究内容に関する世界の最新研究動向について俯瞰的に捉えその詳細を理解するために、国際的な研究論文を解読する機会を提供する。更には、研究成果が国際学会や英文科学誌に投稿するに値する場合は、その発表の機会を提供する。

## 1. 単位制

本学部では、授業科目を履修し合格と認められたものに対して所定の単位を与える「単位制度」に基づいて授業を行います。1単位の授業科目とは、45時間の学修を必要とする内容をもって構成されます。この45時間の学修には、授業の時間に加えて、学生が自主的に学習する自習の時間が含まれます。

表1に、授業科目の形態ごとに定められた1単位あたりの授業時間と自習時間の下限の時間数基準を記します。

## 2. 単位の計算方法

- (1) 本学においては、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成されています。
- (2) この45時間の学修は、講義、演習等の授業時間に加えて、学生が自主的に行う準備、学習等の自習時間が含まれています。

本学においては、次表の基準を大学における授業時間の下限として単位数を定めています。

講 義	15時間の授業と、30時間の自習をもって1単位とする。
演 習	15時間の授業と、30時間の自習をもって1単位とする。
外 国 語	30時間の授業と、15時間の自習をもって1単位とする。
実 験 実 習 実 技	30時間の授業と、15時間の自習をもって1単位とする。
卒業研究	必要な学修内容に基づいて学部学科で定める。

表1 授業科目形態別の1単位あたりの時間数基準

### 1. 教育課程の適用

教育課程は「入学時のものを卒業するまで適用する」ことを原則としています。教育課程は入学年度により異なりますので、単位を修得し卒業するためには、各自の教育課程に従い授業科目を履修することが必要です。入学時に配付した学修簿（本冊子）に教育課程が掲載されているので、卒業するまで各自大切に保管し、活用してください。

### 2. 教育課程

本学の教育課程は、一般的素養を深めるための「一般科目」、専門分野にける自然科学の基盤を修得するための「基礎科目」、専門分野における高度な専門知識と技術・研究方法を修得し、事象の本質的な理解を深めるための「専門科目」を体系的に配置しています。

「基礎科目」は、専門分野を学修するうえで必須となる数学、物理学、化学、生物学、情報科学等を修得する「基幹基礎科目」と、専門教育の基礎となる知識と能力を身に付け、自らの専攻分野と学際領域を理解し、専門教育に取り組むための視野と思考力を養成する「専門基礎科目」があります。

### 3. 授業科目の区分

授業科目は「必修科目」と「選択科目」に区分されます。「必修科目」は卒業するために必ず履修して単位を修得しなければならない授業科目であり、学習教育目標を達成するためには不可欠な授業科目です。一方「選択科目」は各自の学習計画に沿って選択する授業科目であり、学習教育目標を達成するためには所定の単位以上を修得しなければなりません。

### 4. 授業科目表

授業科目の一覧表は、一般科目、基礎科目、専門科目、卒業研究から構成され、授業科目の名称、単位数、標準履修学年、授業科目区分が記されています。

### 5. カリキュラムマップ（巻末資料①）

カリキュラムマップは、体系的な教育課程を明確化するため、授業科目と教育目標の関係を示した表のことです。各科目が、卒業までに身に付けるべき能力の、どの項目と関連するかを確認することができます。

### 6. カリキュラムツリー（巻末資料②）

カリキュラムツリーは、学習成果の達成に向けての授業科目間の系統性や、学修の順序が示されています。

### 7. 薬学教育モデル・コアカリキュラムと授業科目の対比表（巻末資料③）

各科目が、薬学教育モデル・コアカリキュラムのどの項目と関連するかを確認することができます。

## 第7 学位授与の方針と卒業の要件

### 1. 学位授与の方針

所定の期間在学し、学習教育目標に沿って編成された教育プログラムの目標を達成し、所定の単位数を修得した学生に対して卒業を認定し、学士（薬学）の学位を授与します。

### 2. 卒業の要件

薬学部薬学科を卒業するためには、6年以上在学し【一般科目】【基礎科目】【専門科目】【卒業研究】【自由科目】ごとに定められた単位数以上を修得しなければなりません。表2に、卒業に必要な単位数を示します。

科目		薬学部薬学科		
		必修科目	選択科目	計
一般科目	外国語	4	4 (英語2単位以上)	8
	健康科学、人文科学 社会科学、自然科学	2	10	12
	小計	6	14	20
	基礎科目	5	4	9
	専門科目	147	14	161
	卒業研究	9		9
	自由科目		6	6
	合計	167	38	205

表2 卒業に必要な単位数

#### (1) 一般科目

【一般科目】に属する授業科目は、「必修科目」と「選択科目」から構成されています。卒業するためには表2のとおり、20単位以上を修得する必要があります。「外国語」のうち、必修科目を4単位、選択科目を4単位(内2単位以上は英語科目)、「人文科学」「社会科学」「自然科学」「健康科学」のうち、必修科目を2単位、選択科目を10単位、各自の学修計画に沿って、履修し修得しなければなりません。

#### (2) 基礎科目

【基礎科目】に属する授業科目はすべて「必修科目」と「選択科目」から構成されています。卒業するためには表2のとおり、必修科目を5単位、選択科目を4単位、履修し修得しなければなりません。

### (3) 専門科目

【専門科目】に属する授業科目は、必修科目と選択科目から構成されています。卒業するためには、表2のとおり、必修科目を147単位、選択科目を14単位、履修し修得しなければなりません。

### (4) 卒業研究

4年次から6年次にかけて、毎年度卒業研究科目を修得する必要があります。

### (5) 自由科目

一般科目（外国語）、一般科目（健康科学、人文科学、社会科学、自然科学）、基礎科目、専門科目の中から学生が自由に選択し、卒業に必要なそれらの区分の単位を超えて修得した単位を「自由科目」の単位として認定します。「自由科目」は6単位修得しなければなりません。

## 3. 在学年限

学生が在学できる最長年限は12年です。ただし、休学期間はこれに含みません。

## 第8

## 進級の要件

### 1. 2年進級条件

1年次必修科目23科目のうち20科目以上を修得した者は2年に進級できる。

また、再履修に関しては16ページ「第9 授業・履修 7. 再履修」に従うこととする。

1年次必修科目（23科目）	
Freshman English	Integrated Skills in English A
健康スポーツ1A	健康スポーツ1B
基礎化学	情報リテラシー
薬学倫理A	入門統計学
ヒューマンコミュニケーション1 演習	薬学倫理B
ヒューマンコミュニケーション2 演習	物理化学B
薬学概論	分析化学B
早期体験学習	有機化学2
無機薬化学	分子生命科学1
物理化学A	機能形態学1
分析化学A	
有機化学1	
基礎生命科学	

### 2. 3年進級条件

1年次必修科目を全て修得した上で、2年次必修科目23科目のうち20科目以上を修得した者は3年に進級できる。ただし、「物理・分析科学実習・演習」「有機化学実習・演習」「有機スペクトル実習・演習」「生物系実習・演習」「生薬学実習」は全て修得しなければならない。再履修に関しては2年進級条件に準ずる。

2年次必修科目（23科目）	
物理・分析科学実習・演習	有機スペクトル実習・演習
有機化学実習・演習	生物系実習・演習
Integrated Skills in English B	生薬学実習
生命物理化学	Integrated Skills in English C
臨床分析科学	有機スペクトル解析
有機化学3	生薬学2
生薬学1	微生物学
分子生命科学2	生物薬剤学
機能形態学2	食品衛生と健康
物理薬剤学	薬理学B
栄養の機能と健康	生物統計学
薬理学A	

### 3. 4年進級条件

2年次必修科目を全て修得した上で、3年次必修科目22科目のうち19科目以上を修得した者は4年に進級できる。ただし、「薬理学実習・演習」「衛生薬学実習・演習」「薬剤学実習・演習」は全て修得しなければならない。再履修に関しては2年進級条件に準ずる。

3年次必修科目（22科目）	
薬理学実習・演習	放射医科学
衛生薬学実習・演習	免疫学
薬剤学実習・演習	先端医療学1
生物有機化学	化学物質の生体影響
医薬化学	疾病の予防
薬物動態学	漢方医薬学
生活環境と健康	薬物治療学B
薬理学C	総合医療薬学A
疾病と病態	総合医療薬学B
薬物治療学A	薬事法規・社会薬学2
臨床統計学	
薬事法規・社会薬学1	

### 4. 5年進級条件

3年次必修科目を全て修得した上で、4年次必修科目を全て修得した者は5年に進級できる。

### 5. 6年進級条件

「卒業研究2」を修得した者は6年に進級できる。

### 6. 薬学共用試験受験資格

4年生以上の在籍者は、薬学共用試験（※）の受験資格を与えられます。ただし、5年進級ができないことが確定した場合には、受験することができません。

なお、薬学共用試験に合格しても、5年進級条件を満たさなければ進級できないので注意してください。

#### ※薬学共用試験（CBT\*、OSCE\*）について

まだ薬剤師免許を持たない薬学生が病院や薬局の医療現場で実習（医療行為）を行ってよだけの基本的知識、技能、態度を身に付け、その能力と適性が全国的に一定のレベルに達していることを検証するための試験（薬学生の行為の適法性の確認）。薬剤師養成に関与する全ての薬系大学が標準評価システムを共用して行うもので、“CBT”と“OSCE”の2つの試験が実施されます。

**\*CBT (Computer-Based Testing)**

コンピュータを用いて、4年次末までに修得した「基本事項」、「薬学と社会」、「物理・化学・生物系薬学」、「衛生薬学」、「医療薬学」、「薬学臨床」に関する全ての専門必修科目の知識レベルを試験する。

**\*OSCE (Objective Structured Clinical Examination : 客観的臨床能力試験)**

患者・来局者対応、薬剤の調製、調剤監査、無菌操作の実践、情報の提供など幾つかの場面設定（ステーション）における薬剤師としての学生の対応や実技から、技能や態度を試験する。

### 1. 学期

薬学部では、一年間を「前期・後期」の2学期に分け、1学期を15週にわたり授業を行う2学期制（セメスター制）を原則としています。

ただし、一部の科目では、前期を「Ⅰ期・Ⅱ期」、後期を「Ⅲ期・Ⅳ期」に分割し、1学期を7週にわたり授業を行う4学期制（クォーター制）により授業を行う科目がありますので、授業時間割により確認してください。

### 2. 授業時間

薬学部の授業時間は以下のとおりです。なお、以下の授業時間以外にも集中講義等の授業を行うことがあります。

〔月～金曜日〕	
第1・2時限	9:00～10:30
第3・4時限	10:40～12:10
第5・6時限	13:00～14:30
第7・8時限	14:40～16:10
第9・10時限	16:20～17:50

○第1・2時限、第3・4時限など、90分の授業時間を「1コマ」と呼びます。

### 3. クラス分け授業

- (1) 授業科目によっては、クラス分けして授業が実施されます。受講生数によって単純にクラス分けすることもあるが、学期始めのプレースメントテストの結果によって習熟度別にクラス分けすることもあります。原則として、クラスの変更はできません。
- (2) クラス名称は、アルファベットによってAクラス、Bクラス等、あるいは担当教員名を付す場合があります。

### 4. 実験実習の授業

- (1) 本学では、特に、実験実習授業を重視したカリキュラムのもとで学年ごとに実験や実習が開講されています。講義や演習に比べて2倍以上の時間をかけて学習教育目標を達成することになります。参加姿勢が問われる授業科目であるので、三分の一以上を欠席すると、レポート提出が不可能となることと併せて、学習教育目標を達成することが困難となります。修得するためには、必ず実験実習に出席しなければなりません。
- (2) 実験実習の開始時に行われる課題や方法の説明について、実験テキストを読み予習しておくとして理解しやすく実験や実習に積極的に取り組みます。また、実験実習を行う時の各自の役割分担を把握し、協力して実験実習を行います。得られた結果は解析してレポートにまとめ期限までに提出します。

- (3) 学期始めにグループ分けやレポート提出などについてのガイダンスがあります。

## 5. シラバス（授業計画）

シラバス（syllabus）には、授業概要、達成目標、成績評価方法、使用テキストと参考書、履修上の注意、授業計画が書かれています。各自の学修計画を立てる上で、毎日の予習・復習を行うための参考となる情報に溢れているので、履修登録する前に目を通しておくことが必要です。

- (1) 授業概要は、授業によって学習できる講義や演習、実験や実習の要旨が書かれています。第1回目の授業日には、授業概要の内容説明が行われ、この授業科目で達成できる学習教育目標や授業計画を知ることができます。
- (2) 達成目標は、授業によって修得できる学習教育目標の達成程度を知ることができます。卒業要件を満たす単位の修得によって、学部学科ごとに定められている学習教育目標を達成することができます。また、薬学教育モデル・コア・カリキュラムにおける、学修目標に到達するための学修事項もここに記載されます。
- (3) 使用テキストと参考書は、授業内容の理解と自主的に学習するために必須のものです。受講する前に、テキストを読み理解不明瞭なところを把握して授業に臨むことを薦めます。授業中には、テキストと共にノートを用意して授業内容を筆記しておくことで復習や試験に役立ちます。なお、シラバスに記載されたテキストと参考書はすべて図書館にて閲覧することができます。
- (4) 成績評価方法は、学習教育目標の達成度や成績の評価方法が書かれています。試験、レポート、演習・小問、参加姿勢で評価します。たとえば「試験60点、演習・小問40点の100点で評価する」等です。さらに、必修科目については、定期試験の成績発表後に成績不良であった者に対して行う再試験の有無も明記されています。
- (5) 授業計画には、授業内容が記されています。授業内容の進行状況を把握し、予習や復習するのに役立ちます。また、授業概要と共に授業計画内容を読むことにより内容全体を把握することができます。
- (6) 履修上の注意の欄には、授業科目を履修する上で必要となる事項が書かれています。

## 6. 履修登録

- (1) 単位を修得するためには、履修する授業科目を登録することが必要です。履修登録をしていない授業科目の受講・受験は原則無効とされるので、単位の授与が出来ません。
- (2) 履修登録のための関係書類は、年度始めに配布されます。履修登録のためには、これらの書類によく目を通しておくことが必要です。
- (3) 履修登録期間については掲示で伝達します。期間外の登録は、休学を除いて受理されません。なお、UNIPA履修システムによる履修登録については年度始めにガイダンスが実施されますので、必ず出席してください。
- (4) 必修科目の履修は、必ず下級学年の必修科目から履修登録してください。

## 7. 再履修

不合格となった授業科目を再度履修することを再履修といいます。

- (1) 不合格となった授業科目が必修科目の場合は必ず次年度に再履修しなければなりません。
- (2) 再履修する授業科目についても履修登録をしなければなりません。
- (3) 再履修する授業科目のガイダンスには、必ず出席することが必要です。
- (4) 再履修者対象の授業である再履修クラスが開講される場合があります。
- (5) 同一時間帯に重複する科目を履修することはできません。

## 8. 授業アンケート

授業に対する学生の要望をくみ上げるための授業アンケートが、授業期間の最終日付近に、無記名式で実施されます。

授業アンケートの目的は、①学生の要望を教授法の工夫に反映する ②学生の予習・復習に活かせる授業に改善する ③学習教育目標の達成度を向上させることです。

各自の学修計画に沿って受講し内容理解に励むなかで生じた要望を伝えるよい機会ですので、責任をもって積極的にアンケートに回答しましょう。

## 9. 履修上の一般的注意事項

- (1) 本学では、教育課程・授業科目の種類・単位数および履修方法は、卒業まで原則として入学時の学修簿（本冊子）に従います。ただし、授業科目、教育課程、履修区分等のカリキュラムの改訂や履修・試験制度等の変更によって学修簿の改正が行われることがあります。
- (2) 上級学年に編成された授業科目は履修できません。
- (3) 同一授業時間帯に、2科目以上の授業科目を履修することはできません。
- (4) 同一の授業科目がクラス分け等で複数回開講されている場合、同一科目を複数履修することはできません。
- (5) 一度合格した授業科目の成績を取り消すことはできません。また、再度履修することもできません。
- (6) 授業科目の中には、履修するにあたり前提として修得しておかなければならない授業科目や、履修順序がある場合があります。
- (7) 授業科目の中には、その教育効果や施設等により履修定員等の制限を設ける場合があります。
- (8) 年度により開講しない授業科目があります。
- (9) 授業科目の履修者や出席者が少ない場合、授業の開講を途中で中止する場合があります。

## 10. クォーター制科目

授業を短期間で集中的に受講することが、教育効果を高める上で望ましいと認められる授業科目については、週2回の授業を行うことがあります。これをクォーター制科目といいます。クォーター制科目の履修については、「履修の手引き」の「Ⅵ. 履修について」を参照してください。

## 11. 休講・補講

授業担当教員の都合に伴い、授業を休講にすることがあります。授業が休講になった場合は、補講を行います。休講・補講の連絡はUNIPAシステムにて行います。なお、休講の連絡がなく授業開始時間から30分を経過しても授業担当教員が入室しない場合は、教務課にお問い合わせください。

また、台風の接近や降雪時等の災害時等に、授業を臨時休講にすることがあります。災害時等における臨時休講については、大学のホームページでお知らせします。詳しくは「履修の手引き」の「Ⅷ. 災害時等における授業等の取り扱い」を参照してください。

## 12. 勉学勧告・進路変更勧告の基準

勉学勧告及び進路変更勧告の基準を以下の表のとおり定めています。本基準に該当する学生に対して書面での通知と併せて指導教員（チューター）による指導、保証人を交えた面談を行います。

	勉学勧告	進路変更勧告
対象学生	進級条件を満たしていない者（*）	同一学年における在籍年数が2年を超える者（*）
時 期	前期成績確定後、後期成績確定後	毎年度末の成績確定後
面 談	指導教員（チューター） × 対象学生	学科主任または教務幹事 指導教員（チューター） × 対象学生 保証人

（\*）休学の場合及び特別な事情を除く

授業科目一覧表（一般科目）

	授業科目名	区分	標準履修学年及び単位						備考		
			1年	2年	3年	4年	5年	6年			
一般科目	外国語	Freshman English	必修	1							
		Integrated Skills in English A	必修	1							
		Integrated Skills in English B	必修		1						
		Integrated Skills in English C	必修		1						
		Reading and Writing Skills A	選択				1			4単位以上修得 (内2単位以上は 英語科目)	
		Reading and Writing Skills B	選択				1				
		Listening and Speaking Skills A	選択				1				
		Listening and Speaking Skills B	選択				1				
		Advanced Listening & Speaking	選択				1				
		ドイツ語1	選択				1				
		ドイツ語2	選択				1				
		スペイン語1	選択				1				
		スペイン語2	選択				1				
		韓国語1	選択				1				
		韓国語2	選択				1				
	中国語1	選択				1					
	中国語2	選択				1					
	健康科学	健康スポーツ1A	必修	1							
		健康スポーツ1B	必修	1							
		健康スポーツ2A	選択				1			10単位以上修得	
		健康スポーツ2B	選択				1				
	人文科学	学術と地域文化1	選択				2				
		学術と地域文化2	選択				2				
		哲学	選択				2				
		論理学	選択				2				
		倫理学	選択				2				
		歴史学	選択				2				
心理学		選択				2					
言語学入門		選択				2					
芸術と文化1		選択				2					
芸術と文化2		選択				2					
社会科学		法学	選択				2				
		経済学	選択				2				
	社会学	選択				2					
	社会統計学	選択				2					
	国際事情	選択				2					
	リーダーシップ論	選択				2					
	教養の系譜	選択				2					
	ボランティア活動	選択				2					
	地域社会学	選択				2					
自然科学	生命と環境	選択				2					
	環境論	選択				2					
	現代物理学入門	選択				2					

表3 一般科目一覧表

## 一般科目について

薬学部で修得した知識や技術を社会で生かすためには、その土台となる幅広い教養を身に付ける必要があります。本学では、自然科学の基本概念、経済感覚、国際感覚、社会認識、倫理観を育むと共に、自分の視点や考えを相手に表現する能力を磨き、豊かな人間性を育てる幅広い教養教育を重視しており、表3に示す教育課程を編成しています。

## 授業科目一覧表（基礎科目、専門科目、卒業研究）

授業科目名	標準履修学年及び単位						授業科目名	標準履修学年及び単位						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年		1年	2年	3年	4年	5年	6年	
<b>◆基礎科目（必修）◆【5単位】</b>														
基礎化学	1						免疫学			2				
情報リテラシー	2						先端医療学1			2				
入門統計学	2						薬物動態学			2				
<b>◆基礎科目（選択）◆【4単位】</b>														
基礎数理学	1						生活環境と健康			2				
基礎物理学	1						化学物質の生体影響			2				
入門情報リテラシー	2						疾病の予防			2				
Practical English in Pharmaceutical Science A		1					漢方医薬学			2				
Practical English in Pharmaceutical Science B		1					薬理学C			2				
<b>◆専門科目（必修）◆【147単位】</b>														
薬学倫理A	2						疾病と病態			2				
薬学倫理B	1						薬物治療学A			2				
ヒューマンコミュニケーション1演習	1						薬物治療学B			2				
ヒューマンコミュニケーション2演習	1						総合医療薬学A			2				
薬学概論	2						総合医療薬学B			2				
早期体験学習	1						臨床統計学			2				
無機薬化学	1						薬事法規・社会薬学1			2				
物理化学A	2						薬事法規・社会薬学2			2				
物理化学B	2						総合医療薬学C				2			
分析化学A	1						医療安全学				2			
分析化学B	2						医療環境論				2			
有機化学1	2						医療情報学				2			
有機化学2	2						医療経済学				2			
基礎生命科学	2						薬学基礎総論				1			
分子生命科学1	2						薬学臨床事前実習				5			
機能形態学1	2						病院薬局実務実習					20		
物理・分析化学実習・演習		2					薬剤師業務総論							2
有機化学実習・演習		2					<b>◆専門科目（選択）◆【14単位】</b>							
有機スベクトル実習・演習		2					薬学基礎演習1				1			
生物系実習・演習		2					薬学基礎演習2				1			
生薬学実習		1					薬学基礎演習3				1			
生命物理化学		1					薬学基礎演習4				1			
臨床分析化学		2					有機合成化学				2			
有機化学3		2					創薬化学				2			
有機スベクトル解析		2					分析化学C				1			
生薬学1		2					先端物理化学				1			
生薬学2		2					バイオ・ケモインフォマティクス				2			
分子生命科学2		2					インシリコ創薬				2			
機能形態学2		2					薬剤師キャリア論				1			
微生物学		2					健康ビッグデータ解析学A				1			
物理薬剤学		2					健康ビッグデータ解析学B				1			
生物薬剤学		2					Practical English for Medical Sciences A				1			
栄養の機能と健康		2					Practical English for Medical Sciences B				1			
食品衛生と健康		2					先端医療学2					1		
薬理学A		2					速度論解析					1		
薬理学B		2					製剤学					1		
生物統計学		2					腫瘍制御学					1		
薬理学実習・演習			2				実務薬学					2		
衛生薬学実習・演習			2				災害薬学					1		
薬剤学実習・演習			2				専門薬剤師					1		
放射医科学			1				薬局病院特別実務実習						3	
生物有機化学			2				<b>◆卒業研究（必修）◆【9単位】</b>							
医薬化学			2				卒業研究1				3			
							卒業研究2					3		
							卒業研究3						3	

（備考）【 】内は各区分の卒業に必要な単位数を表す。

表4 基礎科目、専門科目、卒業研究一覧表

## 1. 試験の種類

試験の種類には、「定期試験」「臨時試験」「追試験」「再試験」があります。

### (1) 定期試験

学期末後半2週の授業中に行われる試験です。授業科目によってはレポート等によって試験に代える場合があります。

#### ① 実施期間

I期、II期及び前期、III期、IV期及び後期の後半2週の授業中に実施します。特別に定期試験用の時間割はありませんので注意してください。実施日は授業時間内に連絡するとともに、取りまとめたスケジュールをUNIPAに掲示します。

なお、定期試験が終了したのちも授業を行う場合があります。

#### ② 受験要件

- ・各授業科目のシラバスに記載された受験要件を満たしていること  
(単位の認定は原則として3分の2以上の出席を前提とします。)
- ・授業科目の年度ごとの履修登録をしていること
- ・学費を完納していること

#### ③ レポート

授業科目によっては、定期試験をレポートに代えることがあります。レポート提出にあたっては、次の点に十分に注意することが重要です。

- ・定期試験に関する掲示に従います。
- ・レポートの書き方や形式、提出の期限や場所については、授業科目の担当教員の指示に従います。なお指示に従わない者は、受理されない場合があります。
- ・提出したレポートは、特別な場合を除き、返却されません。

### (2) 臨時試験

学期の途中に不定期に行われる試験です。授業科目ごとにシラバスに明記されている小試験等がこれに相当します。臨時試験は成績評価のために実施されることは勿論ですが、授業の進み方に伴う学生の理解度を確認するためにも実施されます。

### (3) 追試験

病気、その他やむを得ない事情のため、定期試験を受験できなかった者に対して行う試験です。審査の上、許可された者のみ受験することができます。ただし、学費滞納者は受験することはできません。

### ① 受験資格

追試験が行われる場合、以下に掲げる事情によりやむを得ず定期試験に欠席したと認められる者。(当該事由の証明書又はこれに代わる書類の添付が必要)

- a) 病気欠席
- b) 忌引き
- c) 公共交通機関の遅延、事故
- d) 火災、風水害等の罹災
- e) その他、特別な事情により、学科主任または教務幹事が正当な理由として受験が不可能であったと確認できた場合

ただし、次の理由による追試験の受験は認められない。

- ・遅刻(証明書のない場合)
- ・授業及び試験時間割の見間違い
- ・その他、不注意と判断された場合

### ② 受験申請

追試験の受験を願い出る者は、定期試験を欠席した理由を証明する書類を整え、追試験願を指定日までに事務部へ提出しなければなりません。実施時期は、前期・後期のそれぞれの学期末です。追試験に係る伝達はすべて掲示によって行われます。

### ③ 追試験料納入

追試験の受験が許可された後、受験者は所定の追試験料を納入し、受験手続すること。未納の場合、受験不可となります。

### ④ 成績評価

追試験の成績は、100点満点で評価されます。

## (4) 再試験

必修科目の定期試験の結果、不合格となった科目について行う試験です。再試験は必ず実施される試験ではなく、実施の有無についてはシラバスに記載されます。

### ① 受験手続・再試験料納入

受験者は所定の再試験料を納入し、受験手続すること。未納の場合、受験不可となります。

### ② 成績評価

再試験の成績は、60点を最高限度として評価します。

## 2. 受験において順守する事項(※)

### (1) 受験前に

試験時間は各自で責任をもって確認する。

## (2) 試験会場において

- ① 学生証の写真部分が確認できるように通路側の机上に提示する。
- ② 試験開始後20分以上の遅刻者の受験は許可されない。
- ③ 試験開始後30分までの退出はできない。
- ④ 試験会場においては、試験監督者の指示に従う。
- ⑤ 机には、学生証、筆記用具、持ち込みを許可されたものを置き、それ以外の物はまとめて鞆の中に入れ、椅子の下に置く。
- ⑥ スマートフォンは、電源を切り鞆の中にしまう。なお、スマートフォンの付加機能（電卓・時計等）の利用は認められない。
- ⑦ 質問がある場合には手を挙げて質問する。
- ⑧ 筆記用具、消しゴム、定規等の受験用具の貸借はできない。貸借は不正行為とみなされる。
- ⑨ 解答不能の場合でも答案は必ず提出しなければならない。答案の持ち帰りは不正行為とみなされる。
- ⑩ 不正行為と疑いをもたれるような態度や行為を慎み、不正行為は絶対にしない。不正行為は学則第51条により懲戒処分をうけ、そのうえ定期試験期間中の全ての受験科目が0（ゼロ）点となる。

※詳しくは「履修の手引き」の「Ⅷ. 試験・レポートについて」を参照してください。

## 第12 成績評価基準及び単位の認定

### 1. 成績評価基準

授業科目の成績評価は最高100点の点数制で評価します。成績は、表5に示すように、点数基準に従ってS、A、B、C、Dによって表記します。C表記60点以上が合格であり、D表記59点以下は不合格です。

評価	素点	合否	評価の方策
S	100点～90点	合格	特に優れた成績を示したもの
A	89点～80点		優れた成績を示したもの
B	79点～70点		妥当と認められる成績を示したもの
C	69点～60点		合格と認められる最低限の成績を示したもの
D	59点以下	不合格	合格と認められるに足る成績を示さなかったもの

表5 成績評価と点数基準

- (1) 授業科目の成績は、試験、レポート、演習・小問、参加姿勢によって評価されます。シラバスには、例えば講義授業では「定期試験60点+演習・小問40点=100点で評価する」ように、また実験授業では「参加姿勢40点+実験レポート60点=100点で評価する」ように、成績評価の方法が明記されています。
- (2) 合格した授業科目に対する成績の取り消しや受験のやり直しはできません。

### 2. GPA評価

GPAとは、Grade Point Average(成績評価点平均値)のことで、学生が主体的・意欲的に学習するための有効な指標です。

- (1) 成績評価S、A、B、C、Dのそれぞれに対応して評価ポイントGP=4、3、2、1、0を与え、さらに授業科目の単位の値を考慮してGPAを算出します。  
[表6に成績表記とGP(評価ポイント)を示します]
- (2) 評価「-」(ハイフン)は、履修登録した科目の末受験を表しGP=0として計算されます。
- (3) 成績評価Nは、入学又は編入学以前や留学中の修得科目であって成績の読替不能を表し、GP=不定としてGPA算出の対象外となります。
- (4) すべての履修科目の平均値としてGPAが算出されます。

合否	評価	GP	素点	評価の方策 (Grading Policy)
合格	S	4	100～90点	特に優れた成績を示したもの (Excellent)
	A	3	89～80点	優れた成績を示したもの (Good)
	B	2	79～70点	妥当と認められる成績を示したもの (Fair)
	C	1	69～60点	合格と認められる最低限の成績を示したもの (Poor)
不合格	D	0	59点以下	合格と認められるに足る成績を示さなかったもの (Fail)
評価不能	—	0	履修放棄	学修成果の評価を判断する要件を欠格している
認定	N	計算対象外		認定したもの (Pass) ※入学以前に修得した科目、留学中に修得した科目のうち成績の読替ができない科目

表6 成績評価とGP (評価ポイント)

GPA評価は、学部学科によってその活用法は異なりますが、以下のとおり活用されることがあります。

- 1) 学位授与式における総代などの表彰選考
- 2) 奨学金の選考及び適格認定

GPA算出は、次の計算式によって行われます。

$$GPA = \frac{4 \times S \text{ 修得単位数} + 3 \times A \text{ 修得単位数} + 2 \times B \text{ 修得単位数} + 1 \times C \text{ 修得単位数} + 0 \times (D \text{ 又は } - \text{ の単位数})}{\text{総履修単位数 (D と } - \text{ は含むが、N は含まない)}}$$

### 3. 合格発表 (単位認定)

合格した授業科目については、所定の単位を認定する。授業科目には、半期で修得する授業科目と通年で修得する授業科目があり、前期科目の合格発表は8月下旬頃、後期科目・通年科目の合格発表は2月中旬頃に、UNIPAを通して行われます。

### 1. 数理・データサイエンス・AI教育プログラム

本学では、数理・データサイエンス・AIに関する科目を履修することを可能とした学部横断型プログラムとして、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」を開設しています。本学の数理・データサイエンス・AI教育プログラムは、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に認定、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）プラス」に選定されています。（認定の有効期限：令和8年3月31日まで）

### 2. 学習・教育目標

数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を身に付けます。また、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し活用できる能力を身につけます。

### 3. 履修方法

数理・データサイエンス・AI教育プログラムを履修するために特別な手続きは不要です。

### 4. 教育プログラム修了要件

教育プログラムを構成する導入・心得・基礎からなるプログラム学習内容（1）から（5）に対応した科目をそれぞれ2単位以上修得した場合、数理・データサイエンス・AI教育プログラムを修了したと認定します。

分類	プログラム学習内容		修了要件
導入	社会におけるデータ・AI利活用	(1) データ・AIは、現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0等）に深く寄与しているものであり、私たちの生活と密接に結びついていることを学ぶ	2単位以上修得
		(2) 社会で活用されているデータやデータの活用領域は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得ることを学ぶ	2単位以上修得
		(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例を通し、数理・データサイエンス・AIは、様々な適用領域の知見と組み合わせることで価値を創出することを学ぶ	2単位以上修得
心得	データ・AI利活用における留意事項	(4) 活用に当たっての様々な留意事項（個人情報保護、データ倫理等）を理解し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項を学ぶ	2単位以上修得
基礎	データリテラシー	(5) 実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として「データを読む、説明する、扱う」といった基本的な活用法を学ぶ	2単位以上修得

表7 数理・データサイエンス・AI教育プログラム修了要件

### 5. 教育プログラム科目

数理・データサイエンス・AI教育プログラムの科目は、次のホームページにてお知らせします。

<ホームページ>

<https://www.socu.ac.jp/departments/AI.html>

## 第14 手続きが必要な事項

### 1. 住所変更、本籍・保証人の変更、改姓・改名（学籍簿の変更）

学籍簿の内容に変更が生じたときには、速やかに事務部に申し出て所定の手続きを行うこと。本人や保証人の住所変更、本籍や保証人の変更、改姓、改名をしたときには手続きが必要です。

### 2. 証明書の交付

成績証明書、在学証明書、卒業見込証明書、単位修得証明書等の交付については、「学園生活」や「履修の手引」に詳しく記載されています。参照のうえ必要な証明書の交付を受けましょう。

### 3. 休学・長期欠席と復学、退学と再入学

- (1) 病気やその他やむを得ない事情により、修学が困難となり休学や長期欠席、退学する場合には、必ずチューターと教務幹事に相談の上、学生支援課で所定の手続きを行います。
- (2) 休学期間が満了し、事情が好転して復学する場合、学生支援課で復学手続きを行います。
- (3) 本学を退学後、再度、入学を志望する場合には、学生支援課において「再入学要項」を入手し、再入学条件や選考方法などを確認し所定の手続きを行います。

### 4. 除籍

学則には、以下に該当する場合に除籍が定められています。

- (1) 授業料を所定の期間を経過しても納入しなかった場合
- (2) 休学期間が満了しても復学手続を行わなかった場合
- (3) 最長在学年限12ヶ年（休学期間を除く）で卒業できなかった場合

### 5. 公欠届

下記の事由により授業を欠席するときは、公欠扱いとしますので、所定の公欠届を必要書類とともに教務課窓口まで届け出てください。

公欠事由	条件	公欠として認められる期間	手続等
学校保健安全法施行規則第18条に定められた感染症に罹患したことにより、出席停止の措置を受けた場合 (第3条第1号)	学校保健安全法施行規則第19条の定めによる。		別紙様式「公欠届」に証拠となる書類（発症日の記載された診断書又は治癒証明書）を添付し教務課に提出。

親族が死亡した場合 (第3条第2号)	配偶者及び1親等、2親等の親族の死亡に伴い必要と認められる葬儀、服喪その他の行事のため授業に出席できなかった場合	親族に応じ次に掲げる原則として連続する暦日数(葬儀のため遠隔の地に赴く場合にあっては、往復に要する日数を加えた日数)の期間 ・配偶者及び1親等の親族の場合は、連続7日(休日を含む)。 ・2親等の場合は、連続3日(休日を含む)。	別紙様式「公欠届」に証拠となる書類(会葬礼状又は死亡診断書(写)等)を添付し、教務課に提出。
休講の対象とならない気象警報等や気象現象又は地震による交通機関の運休により通学が困難であると認められた場合 (第3条第3号)		1日	別紙様式「公欠届」に交通機関の運行休止を明らかにする書類(遅延証明書等)を添付し教務課に提出。
裁判員の参加する刑事裁判に関する法律に基づき裁判員又は裁判員候補者に選任された場合(第3条第4号)	裁判員候補者として、裁判員選任手続きのために裁判所に行った場合	1日	別紙様式「公欠届」に期間が明記された証拠となる書類(裁判所からの通知書等)を添付し教務課に提出。
	裁判員として選任され、裁判(公判、評議、評決等)に参加した場合	3日	

\*第3条第3号の通学とは大学に届出をしている居住地から大学までの通学経路を指します。

通常の通学経路以外の交通機関の事故等による遅延は原則として考慮されません。

\*その他教務委員会において、前各号に準じて特段の取扱いが必要であると認められた者(第3条第5号)

## 学校保健安全法施行規則第18条に基づく感染症の種類及び出席停止期間

種別	感染症名	出席停止期間
第一種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、バスト、マールブルク病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、鳥インフルエンザ、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症、新感染症	治癒するまで。
第二種	インフルエンザ	発症した後5日を経過し、かつ解熱した後2日を経過するまで。
	百日咳	特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで。
	麻疹	解熱した後3日を経過するまで。
	流行性耳下腺炎	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好となるまで。
	風疹	発疹が消失するまで。
	水痘	すべての発疹が痂皮化するまで。
	咽頭結膜熱	主要症状が消退した後2日を経過するまで。
第三種	結核、髄膜炎菌性髄膜炎	病状により医師において感染の恐れがないと認められるまで。
	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎その他の感染症	病状により医師において感染の恐れがないと認められるまで。

## 6. 欠席届

公欠以外の事由により連続7日以上授業を欠席するときは、所定の欠席届を教務課窓口まで届け出てください。

## 第14 学内の相談窓口・連絡先

学内の連絡先は、以下のとおりです。

気になることや相談したいことがある場合は、気軽に窓口をたずねてください。

【窓口時間】 8：30～17：00（土日祝日および事務休業日を除く）

### ●緊急時連絡先

内 容	窓口および連絡先
・学内での怪我、病気	保健管理センター 2号館1階 TEL 0836-88-4507
・学内での事故・盗難等	学務部 学生支援課 1号館1階 TEL 0836-88-4503 (夜間・休日は警備員室に切換)

### ●その他の連絡先

内 容	窓口および連絡先
・教務関係全般（履修関係、試験関係、成績関係、UNIPA関係、各種届出等）	学務部 教務課 1号館1階 TEL 0836-88-4502 (夜間・休日は警備員室に切換)
・学生生活全般（奨学金、課外活動、体育施設利用、遺失物等） ・日常でのトラブル ・その他の相談について	学生部 学生支援課 1号館1階 TEL 0836-88-4503 (夜間・休日は警備員室に切換)
・健康相談 ・心の相談	保健管理センター 2号館1階 TEL 0836-88-4507 学生相談室（開室日時はHP参照） 6号館1階 TEL 0836-88-4539 HP <a href="http://gakuseisoudan.rs.socu.ac.jp/">http://gakuseisoudan.rs.socu.ac.jp/</a>
・就職について ・大学院進学 ・進路相談	キャリア支援センター 2号館1階 TEL 0836-88-4506
・コンピュータについて	学術情報システム課 3号館1階 TEL 0836-88-4509

# 巻末 1. 薬学部薬学科カリキュラムマップ

- DP1 薬学人としての教養と倫理観、コミュニティ愛、キーパーソンとして活躍するためのリーダーシップ**  
 DP1-1 「薬学をとおして人々の健康を守る」という薬学人として活躍できる教養と人間性、倫理観を備えている。  
 DP1-2 自らの関係する地域社会をはじめ様々なコミュニティ(職業、学問領域など)を愛する気持ちを有している。  
 DP1-3 患者本位の視点で人の命と健康な生活を守るキーパーソンとして活躍するためのリーダーシップ(意欲、使命感と責任感)を備えている。
- DP2 薬学人としての基本的な知識・技能と、それらに裏付けられた応用力**  
 DP2-1 薬学人の知識の基盤となる基礎科目(物理・化学・生物)及び情報学、統計学の、基礎知識を有している。  
 DP2-2 基礎科目等の学びで得た基礎知識を基盤として、健康・福祉・医療・創薬など様々な分野で、薬学人としてその知識・技能・応用力を発揮できる。  
 DP2-3 患者や生活者の視点に立った薬物治療方針を立てることができる。
- DP3 薬学人としての問題発見・解決能力と研究遂行意欲**  
 DP3-1 薬学の領域をはじめ様々な自然科学的または社会的現象について、解決すべき問題を発見・認識できる。  
 DP3-2 発見・認識した問題に対し、薬学的知識・技能を基盤に、その解決に向けた研究立案およびその遂行の意欲を有している。
- DP4 薬学人としてのコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力**  
 DP4-1 患者や生活者、他医療職種はじめ他職種に対し、自らのみならず相手の立場を理解の上、対象者に関する有益な情報を収集・発信できる。  
 DP4-2 薬学領域のみならず地域社会・国際社会で問題解決に向け、よりよい方法を探索し、その情報を発信できる。

授業科目名			DP1			DP2			DP3		DP4		
			DP1-1	DP1-2	DP1-3	DP2-1	DP2-2	DP2-3	DP3-1	DP3-2	DP4-1	DP4-2	
一般科目	外国語	Freshman English	必修									○	
		Integrated Skills in English A	必修										○
		Integrated Skills in English B	必修										○
		Integrated Skills in English C	必修										○
		Reading and Writing Skills A	選択										○
		Reading and Writing Skills B	選択										○
		Listening and Speaking Skills A	選択										○
		Listening and Speaking Skills B	選択										○
		Advanced Listening & Speaking	選択										○
		ドイツ語1	選択										○
		ドイツ語2	選択										○
		スペイン語1	選択										○
		スペイン語2	選択										○
		韓国語1	選択										○
	韓国語2	選択										○	
	中国語1	選択										○	
	中国語2	選択										○	
	健康科学	健康スポーツ1A	必修	○									
		健康スポーツ1B	必修	○									
		健康スポーツ2A	選択	○									
		健康スポーツ2B	選択	○									
	人文科学	学術と地域文化1	選択	◎	◎	◎				○	○		
		学術と地域文化2	選択	◎	◎	◎				○	○		
		哲学	選択	○									
		論理学	選択	○									
		倫理学	選択	○									
		歴史学	選択	○	○								○
		心理学	選択	○					○	△		○	
		言語学入門	選択	○						△		△	
		芸術と文化1	選択	○	○								
		芸術と文化2	選択	○	○								
	社会科学	法学	選択	○									
経済学		選択	○										
社会学		選択				○			○			○	
社会統計学		選択		○		○			○		○	○	
国際事情		選択	○										
リーダーシップ論		選択			◎								
教養の系譜		選択	◎						○				
ボランティア活動		選択	○	◎									
地域社会学		選択		○	○	○			○		○	○	
自然科学	生命と環境	選択	○			○			△				
	環境論	選択							○			○	
	現代物理学入門	選択				◎							

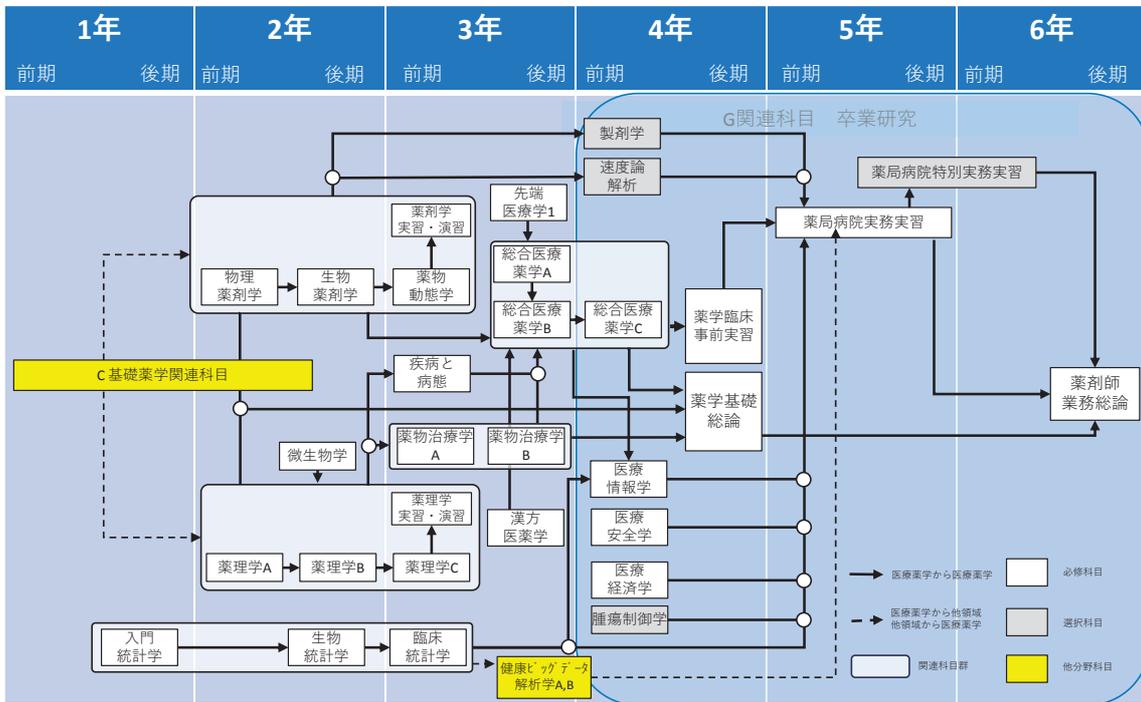
基礎科目	基礎化学	必修				◎							
	情報リテラシー	必修				○	○						
	入門統計学	必修				◎							
	基礎数理学	選択				◎							
	基礎物理学	選択				◎							
	入門情報リテラシー	選択				○	○						
	Practical English in Pharmaceutical Science A	選択				○	○		○			○	
	Practical English in Pharmaceutical Science B	選択				○	○		○			○	
専門科目	薬学倫理A	必修	◎		◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎
	薬学倫理B	必修	◎		◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎
	ヒューマンコミュニケーション1演習	必修	◎	◎	◎							○	○
	ヒューマンコミュニケーション2演習	必修	◎	◎	◎							○	○
	薬学概論	必修	◎		○	△	△	△				○	
	早期体験学習	必修	◎	◎	◎		△	○	○	○	◎	◎	
	無機薬化学	必修	△			◎							
	物理化学A	必修				◎							
	物理化学B	必修				◎							
	分析化学A	必修	△			◎	△						
	分析化学B	必修	△			◎	○		△				
	有機化学1	必修	△	△	△	◎	◎		△	△			
	有機化学2	必修	△	△	△	◎	◎		△	△			
	基礎生命科学	必修	△			◎	◎		○				
	分子生命科学1	必修	△			◎	◎	△	○				
	機能形態学1	必修				◎	○						
	物理・分析化学実習・演習	必修	△			◎	◎		△				
	有機化学実習・演習	必修	△	△	△	◎	◎		◎	◎			
	有機スペクトル実習・演習	必修	△			◎	◎		◎	◎			
	生物系実習・演習	必修	△			◎	◎		○	○			
	生薬学実習	必修	○			◎	◎	○	◎	◎			
	生命物理化学	必修				◎							
	臨床分析化学	必修	△			◎	◎		△				
	有機化学3	必修	△	△	△	◎	◎		△	△			
	有機スペクトル解析	必修	△			◎	◎		△	△			
	生薬学1	必修	○			◎	◎	○	△	△			
	生薬学2	必修	○			◎	◎	○	△	△			
	分子生命科学2	必修	△		△	◎	◎		○				
	機能形態学2	必修				◎	○						
	微生物学	必修	△			◎	◎						
	物理薬剤学	必修				◎	◎						
	生物薬剤学	必修				◎	◎	△					
	栄養の機能と健康	必修	△			○	◎						
	食品衛生と健康	必修	△			○	◎						
	薬理学A	必修	△			◎	◎	△					
	薬理学B	必修	△			◎	◎	△					
	生物統計学	必修				◎	○						
	薬理学実習・演習	必修	△			◎	◎		○	△			
	衛生薬学実習・演習	必修	△			○	◎		○	△			
	薬剤学実習・演習	必修				◎	◎		△	△			
放射医科学	必修	△		△	◎	◎		○					
生物有機化学	必修	△			◎	◎	△						
医薬化学	必修	○	△	△	◎	◎	◎	◎	◎				
免疫学	必修				◎	◎							
先端医療学1	必修				◎	◎							
薬物動態学	必修				◎	◎	○						
生活環境と健康	必修	△			○	◎							
化学物質の生体影響	必修	△			○	◎							
疾病の予防	必修	△			○	◎	△						
漢方医薬学	必修				○	◎							
薬理学C	必修	△			◎	◎	△						
疾病と病態	必修	△			◎	◎	○						
薬物治療学A	必修				◎	○	◎	○	○				
薬物治療学B	必修				◎	○	◎	○	○				
総合医療薬学A	必修	○	△	○	◎	◎		◎	◎	△			

	総合医療薬学B	必修	○		△	◎	◎	◎	△	○	○	
	臨床統計学	必修	◎	○		◎	◎	○	◎	○	○	○
	薬事法規・社会薬学1	必修	◎				◎					○
	薬事法規・社会薬学2	必修	◎				◎				○	○
	総合医療薬学C	必修	○		○	◎	◎	◎	△	○	◎	△
	医療安全学	必修	○		◎	○	◎	◎	○	○	○	△
	医療環境論	必修	○	○		△	○	○	○	○	○	○
	医療情報学	必修	◎	○	○	◎	○	○	△	△	◎	
	医療経済学	必修	○				◎					○
	薬学基礎総論	必修	△			○	◎	△	△	△		
	薬学臨床事前実習	必修	○	○	△		△	◎	△	△	○	
	病院薬局実務実習	必修	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	薬剤師業務総論	必修	○			◎	◎	◎	○	○		
	有機合成化学	選択				◎	◎		△	△		
	創薬化学	選択	△			◎	◎	△				
	分析化学C	選択	△			◎	◎		△			
	先端物理化学	選択				◎	○					
	バイオ・ケモインフォマティクス	選択				◎	◎	△	△	△		
	インシリコ創薬	選択				◎	◎	△	△	△		
	薬剤師キャリア論	選択	○	○	○							
	健康ビッグデータ解析学A	選択				◎	◎	△	△	△		
	健康ビッグデータ解析学B	選択				◎	◎	△	△	△		
	Practical English for Medical Sciences A	選択				◎	◎		◎		○	
	Practical English for Medical Sciences B	選択				◎	◎		◎		○	
	先端医療学2	選択				○	◎					
	速度論解析	選択				◎	◎	◎	△	△	△	
	製剤学	選択	○	○	○	◎	◎	◎	○		◎	◎
	腫瘍制御学	選択					◎	○	◎	◎	○	○
	実務薬学	選択	○		△	◎	◎	○	△	○	○	
	災害薬学	選択	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	◎	◎
	専門薬剤師	選択	◎	○	◎	△	◎	◎	○	◎	◎	◎
	薬局病院特別実務実習	選択	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
卒業研究	卒業研究1	必修	△			◎	◎		◎	△	△	○
	卒業研究2	必修	△			◎	◎		◎	○	○	◎
	卒業研究3	必修	△			◎	◎		◎	◎	◎	◎

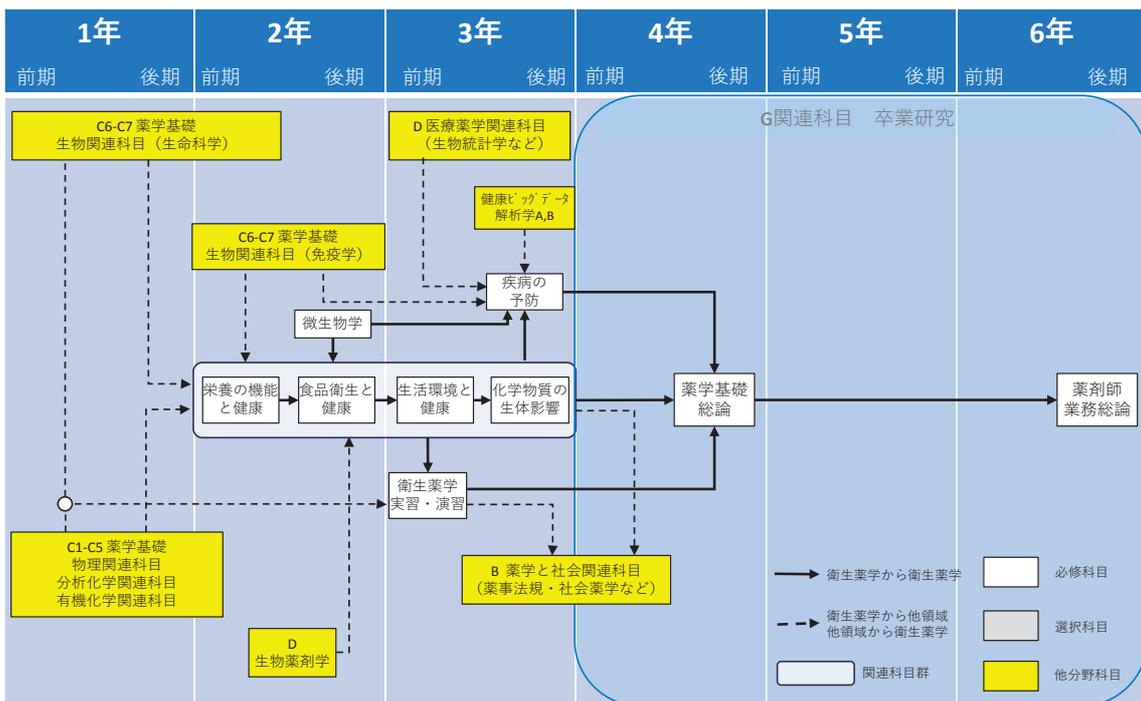




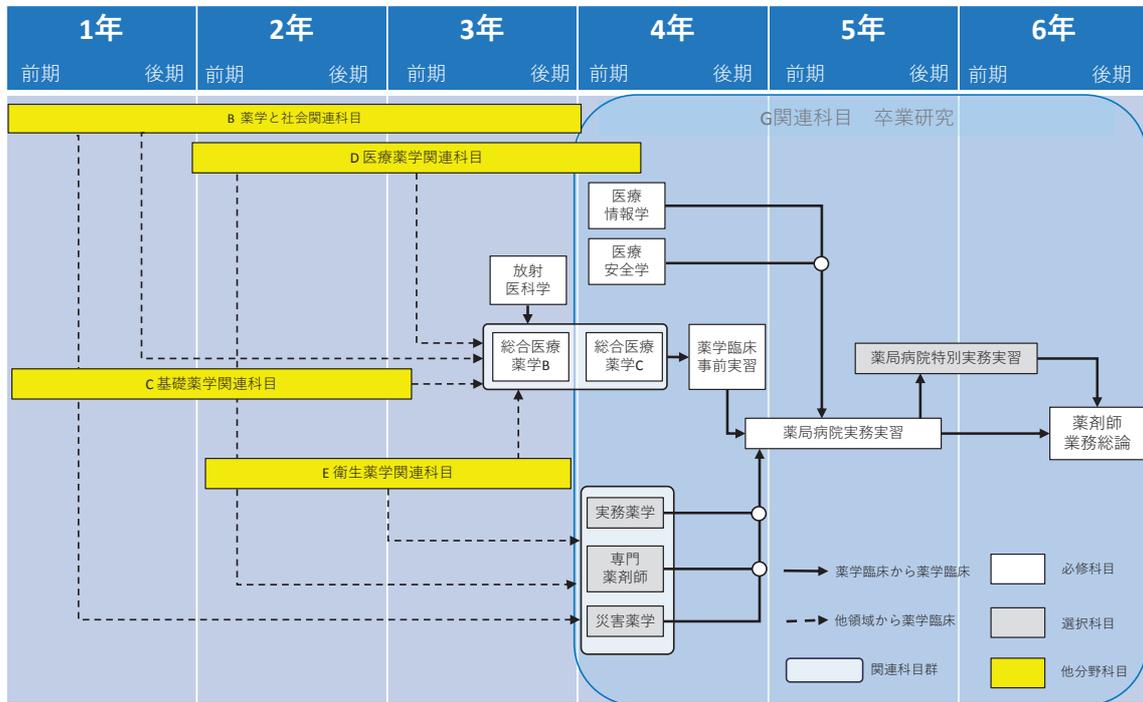
### ⑤ 医療薬学（コアカリD）



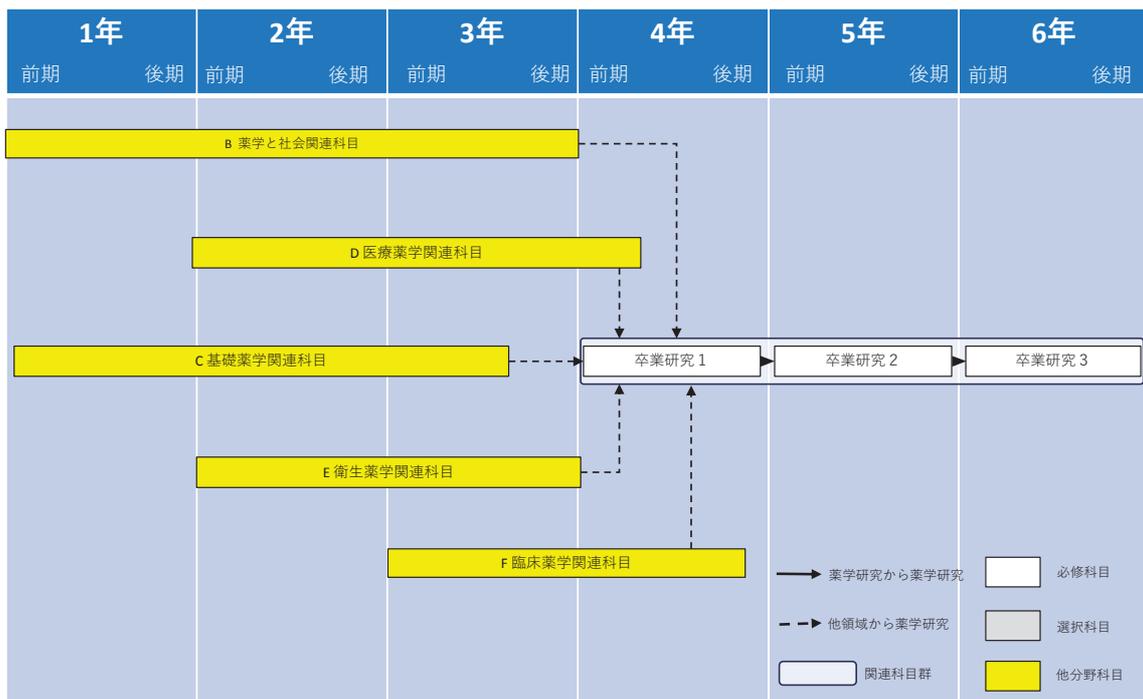
### ⑥ 衛生薬学（コアカリE）



### ⑦ 薬学臨床（コアカリF）



### ⑧ 薬学研究（コアカリG）



## 巻末3. 薬学教育モデル・コア・カリキュラムと授業科目の対比表

### A 薬剤師として求められる基本的な資質・能力

1. プロフェッショナリズム
2. 総合的に患者・生活者をみる姿勢
3. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢
4. 科学的探究
5. 専門知識に基づいた問題解決能力
6. 情報・科学技術を活かす能力
7. 薬物治療の実践的能力
8. コミュニケーション能力
9. 多職種連携能力
10. 社会における医療の役割の理解

B 社会と薬学		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
B-1 薬剤師の責務							
1	薬剤師に求められる倫理観とプロフェッショナルリズム	早期体験学習 薬学概論 薬学倫理A, B			薬学臨床事前実習		
2	患者中心の医療	薬学倫理A, B ヒューマンコミュニケーション2講義			薬学臨床事前実習		
3	薬剤師の社会的使命と法的責任	早期体験学習 薬学倫理A, B		薬事法規・社会薬学2	医療経済学 災害薬学 薬学臨床事前実習		
B-2 薬剤師に求められる社会性							
1	対人援助のためのコミュニケーション	ヒューマンコミュニケーション1講義 ヒューマンコミュニケーション2講義			災害薬学 専門薬剤師		
2	多職種連携	早期体験学習 ヒューマンコミュニケーション1講義 ヒューマンコミュニケーション2講義			医療環境論 災害薬学 専門薬剤師		
B-3 社会・地域における薬剤師の活動							
1	地域の保健・医療	薬学概論					
2	医療・介護・福祉の制度				医療経済学		
3	医療資源の有効利用	早期体験学習			医療経済学		
B-4 医薬品等の規制							
1	医薬品開発を取り巻く環境			薬事法規・社会薬学1			
2	医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保と薬害の防止	薬学概論		薬事法規・社会薬学1,2	医療経済学		
3	医薬品等の供給	薬学概論			医療経済学		
4	特別な管理を要する医薬品等	薬学概論		薬事法規・社会薬学2			
B-5 情報・科学技術の活用							
1	保健医療統計				医療情報学		
2	デジタル技術・データサイエンス			健康ビッグデータ解析学A, B			
3	アウトカムの可視化	早期体験学習				病院薬局実務実習	

C 基礎薬学 (C1,C2)		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
C1 化学物質の物理化学的性質							
1	化学結合と化学物質・生体高分子間相互作用	基礎化学 物理化学A	生命物理化学	先端物理化学			
2	電磁波・放射線	物理化学A		放射医科学			
3	エネルギーと熱力学	物理化学B	生命物理化学	先端物理化学			
4	反応速度		生命物理化学	先端物理化学			
C2 医薬品及び化学物質の分析法と医療現場における分析法							
1	分析方法の基礎	分析化学A					
2	溶液の化学平衡と容量分析法	分析化学A 分析化学B					
3	定性分析、日本薬局方試験法	分析化学A 分析化学B	臨床分析化学	分析化学C			
4	電磁波を用いる定量法	分析化学B	臨床分析化学	分析化学C			
5	有機化合物の特性に基づく構造解析-原理-		臨床分析化学				
6	分離分析法		臨床分析化学				
7	医療現場における分析法	分析化学B	臨床分析化学	分析化学C			
8	生体に用いる分析技術・医療機器		臨床分析化学	放射医科学			

C 基礎薬学 (C3,C4,C5)		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
C3 薬学の中の有機化学							
1	物質の基本的性質	基礎化学 有機化学1					
2	有機化合物の立体化学	基礎化学 有機化学1					
3	有機化合物の基本構造と反応性	基礎化学 有機化学1 有機化学2	有機化学3 有機合成化学				
4	有機化合物の特性に基づく構造解析		有機スペクトル解析				
5	無機化合物・錯体	基礎化学 無機薬化学					
C4 薬学の中の医薬品化学							
1	医薬品に含まれる官能基の性質		有機合成化学	医薬化学 創薬化学			
2	生体分子とその反応			生物有機化学			
3	医薬品のコンポーネント			医薬化学 創薬化学			
4	標的分子に基づく医薬品の分類			医薬化学 創薬化学			
5	代表的疾患の治療薬とその作用機序			医薬化学			
C5 薬学の中の生薬学・天然物化学							
1	生薬学・天然物化学の基礎		生薬学1 生薬学2				
2	天然由来医薬品各論		生薬学1 生薬学2				

C 基礎薬学 (C6,C7)		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
C6 生命現象の基礎							
1	生命の最小単位としての細胞	基礎生命科学	微生物学				
2	生命情報を担う遺伝子		分子生命科学2 微生物学				
3	微生物の分類、構造、生活環		微生物学				
4	生命活動を担うタンパク質	基礎生命科学					
5	生体エネルギーと代謝	分子生命科学1					
6	細胞内情報伝達及び細胞間コミュニケーション	分子生命科学1					
7	細胞周期と細胞死		分子生命科学2				
C7 人体の構造と機能及びその調節							
1	器官系概論	機能形態学1					
2	神経系	機能形態学1					
3	内分泌系	機能形態学1					
4	外皮系	機能形態学1					
5	感覚器系	機能形態学1					
6	骨格系	機能形態学1	機能形態学2				
7	筋系	機能形態学1	機能形態学2				
8	循環器系	機能形態学1					
9	リンパ系と免疫系		機能形態学2	免疫学			
10	消化器系		機能形態学2				
11	呼吸器系		機能形態学2				
12	泌尿器系		機能形態学2				
13	体液		機能形態学2				
14	生殖器系		機能形態学2				
15	ヒトの発生		機能形態学2				

D 医療薬学		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
D1 薬の作用と生体の変化							
1	薬の作用のメカニズム		薬理学A				
2	身体の病的変化			疾病と病態			
3	医薬品の安全性				医療安全学 医療経済学		
D2 薬物治療につながる 薬理・病態							
1	自律神経系に作用する薬		薬理学A	総合医療薬学B			
2	鎮痛作用を有する薬物		薬理学A				
3	麻酔薬		薬理学A				
4	運動神経系や骨格筋に作用する薬		薬理学A				
5	神経系の疾患と治療薬		薬理学B	総合医療薬学A			
6	代謝系・内分泌系および骨の疾患と治療薬		薬理学A	総合医療薬学B			
7	皮膚・感覚器系の疾患と治療薬		薬理学B				
8	循環器系の疾患と治療薬		薬理学B	総合医療薬学B			
9	血液・造血器系の疾患と治療薬		薬理学B				
10	免疫・炎症・アレルギー系の疾患と治療薬			薬理学C			
11	消化器系の疾患と治療薬		薬理学B				
12	呼吸器系の疾患と治療薬			薬理学C			
13	泌尿器系の疾患と治療薬			薬理学C 総合医療薬学B			
14	生殖器系の疾患と治療薬			薬理学C			
15	感染症と治療薬		微生物学	薬理学C 総合医療薬学B			
16	悪性新生物（がん）と治療薬				総合医療薬学C		
17	緩和医療と治療薬				総合医療薬学C		
18	遺伝子治療、移植医療			先端医療学1			
19	漢方療法			漢方医薬学			
20	セルフケア、セルフメディケーション				薬学臨床事前実習		
D3 医療における意思決定に必要な医薬品情報							
1	医薬品のライフサイクルと医薬品情報				医療情報学		
2	医薬品情報の情報源と収集				医療情報学		
3	医薬品情報の解析と評価	入門統計学	生物統計学	臨床統計学	医療情報学		
4	医薬品情報の応用と創生				医療情報学		
5	患者情報				医療情報学 薬学臨床事前実習		
D4 薬の生体内運命							
1	薬物の体内動態		生物薬剤学				
2	薬物動態の解析			薬物動態学	速度論解析		
D5 製剤化のサイエンス							
1	薬物と製剤の性質		物理薬剤学				
2	製剤設計		物理薬剤学		製剤学		
3	Drug Delivery System DDS：薬物送達システム		物理薬剤学		製剤学		
D6 個別最適化の基本となる調剤							
1	処方箋に基づいた調剤				実務薬学 薬学臨床事前実習		

E 衛生薬学・公衆衛生薬学		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
E1 人の健康の維持・増進を図る 保健・医療							
1	環境要因によって起こる疾病の予防と健康被害の防止			疾病の予防			
2	人の健康を脅かす感染症の予防とまん延防止		微生物学	疾病の予防			
E2 食品の人の健康の維持・増進における 機能と疾病予防における役割							
1	食品機能と疾病の予防・治療における栄養		栄養の機能と健康 食品衛生と健康				
2	健康をまもる食品衛生		食品衛生と健康				
E3 人の健康をまもるための化学物質の管理と環境の保全							
1	人の健康に影響を及ぼす化学物質の管理と使用			化学物質の生体影響 生活環境と健康			
2	生活環境・自然環境の保全			生活環境と健康 放射医学			

F 臨床薬学		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
F1 薬物治療の実践							
1	薬物治療の個別最適化			総合医療薬学B	医療情報学 実務薬学 総合医療薬学C 専門薬剤師 薬学臨床事前実習	病院薬局実務実習	
F2 多職種連携における薬剤師の貢献							
1	多職種連携への参画・薬剤師の職能発揮	早期体験学習			医療環境論 災害薬学 専門薬剤師	病院薬局実務実習	
F3 医療マネジメント・医療安全の実践							
1	医薬品の供給と管理			放射医学	医療安全学 災害薬学	病院薬局実務実習	
2	医薬品情報の管理と活用				災害薬学	病院薬局実務実習	
3	医療安全の実践				医療安全学 災害薬学	病院薬局実務実習	
4	医療現場での感染制御				災害薬学 専門薬剤師	病院薬局実務実習	
F4 地域医療・公衆衛生への貢献							
1	地域住民の疾病予防・健康維持・増進の推進、介護・福祉への貢献				専門薬剤師 薬学臨床事前実習	病院薬局実務実習	
2	地域での公衆衛生、災害対応への貢献				医療情報学 災害薬学	病院薬局実務実習	
F5 臨床で求められる基本的な能力							
1	医療・福祉・公衆衛生の現場で活動するための基本姿勢				専門薬剤師 薬学臨床事前実習	病院薬局実務実習	

G 薬学研究		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
G1 薬学的課題の探求と薬学研究に取り組む姿勢							
1	薬学研究の重要性と社会的意義の理解				卒業研究1	卒業研究2	卒業研究3
2	薬学研究に取り組む姿勢				卒業研究1	卒業研究2	卒業研究3
G2 研究の実践							
1	研究課題の設定と研究計画の立案				卒業研究1	卒業研究2	卒業研究3
2	研究の実施と成果の解析・考察				卒業研究1	卒業研究2	卒業研究3